

| | |
|---------------|---|
| Title | Vector latticeニ於ケル作用素ノ擴大定理 |
| Author(s) | 小笠原, 藤次郎 |
| Citation | 全国紙上数学談話会. 234 p.989-p.994 |
| Issue Date | 1942-03-23 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/74967 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1036. Vector lattice = 於ける 作用素ノ擴大定理

小笠原 藤次郎 (広島文理大)

汎函数ノ諸種ノ擴大定理ハ vector 値函数ノソレヘ
適當ノ修正ニヨツテ一般化ノ可能性ハ Kantorovitch =
於テ 既知ノコトデアルガ同氏ノ論分ガ未発表デアリ又コレ等
ノ問題ハ一應ハ考ヘラレルベキモノデアリ 自分ノ「ノート」
ノ整理ノタメニコレニ纏リテ見タイ。 Hahn-Banach
ノ定理。正作用素ノ擴大。或ル種ノ連続性ヲ保存スル擴大。
大体コレニツキ分ケテ論ズル。

§ 1. Hahn-Banach ノ定理。

定理 1. X ヲ線型空間, Y ヲ complete vector
lattice トスル。 $f(x)$ ヲ X 上ヲ定義サレ Y ヲ値域トスル

函数ノ次ノ性質ヲモツモノトスル。

$p(x_1+x_2) \leq p(x_1) + p(x_2)$, $t \geq 0$ ノトキ $p(tx) = tp(x)$
今 $f(x)$ が X ノ部分線型空間 X_0 上ヲ定義サレタ Y ノ値域ト
スル additive, homogeneous + 函数デ且ツ X_0
上テ $f(x) \leq p(x)$ が成立スルトスル。コノトキ X 上ヲ定義
サレタ Y ノ値域トスル 次ノ性質ヲモツ additive homo-
geneous + 函数 $F(x)$ が存在スル。

$x \in X$ ノトキ $F(x) \leq p(x)$, $x \in X_0$ ノトキ $F(x) = f(x)$

(証) Banach 1 本 27-29 頁参照。

定理2. 定理1ニ於テ X が vector lattice デ
 $p(x)$ が更ニ次ノ條件ヲ満足スルトキ $F(x)$ ハ regular
トナル。

$$|x_1| \leq |x_2| \text{ ノトキ } p(x_1) \leq p(x_2)$$

(証) x ノ任意ノ正要素トシ, $0 \leq |x| \leq x$ ノトキ
 $|F(x_1)| \leq p(x)$ が成立スルカラ $\{F(x_n)\}$ ハ (0)-有界トナ
ルテ $F(x)$ ハ regular トナル。

Y ノ complete vector lattice トスルトキ
 $y_1 + y_2 i$ ノ全体ヲ $Y + iY$ 或ハ Z ト書ク。茲ニ $y_1, y_2 \in Y$
且ツ y_1 ノ $y_1 + iy_2$ ノ実部分ト云ヒ

$$|y_1 + iy_2| = \bigvee_{c_1^2 + c_2^2 = 1} (c_1 y_1 + c_2 y_2)$$

即チ $\sqrt{y_1^2 + y_2^2}$ デ定義スル。

定理3. X ノ complex normed space, Y ノ complete
vector lattice, $Z = Y + iY$ トスル。

$p(x)$ は次の条件を満足する γ の値域とする函数とする。

$$p(x) = p(\|x\|), \quad p(x_1 + x_2) \leq p(x_1) + p(x_2), \quad t > 0 \\ \text{のとき } p(tx) = t p(x).$$

今 $f(x)$ が X の複素部分線型空間 X_0 上で定義され
 Z の値域とする複素線型函数で $|f(x)| \leq p(x)$ を満足
 するものとする。このとき X 上で定義され Z の値域とする
 複素線型函数 $F(x)$ が存在して $x \in X$ のとき $|F(x)| \leq p(x)$,
 $x \in X_0$ のとき $F(x) = f(x)$ 。

(証) Bochnerblust, Sobczyk, Bull. A.
 M. S. 44 (1938) 参照。 $f(x) = f_1(x) + i f_2(x)$, $f_1(x)$,
 $f_2(x)$ が $f(x)$ の実部と虚部とすれば $f_2(x) = -f_1(ix)$
 $x \in X$ が容易に合ふ。而して $|f_1(x)| \leq |f(x)| \leq p(x)$ が成
 立つから定理1による $f_1(x)$ の拡大 $F_1(x)$ を置

$F(x) = F_1(x) - i F_1(ix)$ と置くと $x \in X$ の問題、 $F(x)$ が
 なることが証明される。

$x \in X_0$ のとき $f(x) = F(x)$ は自明。 $F_1(e^{i\alpha}x) = \cos \alpha \cdot F_1(x)$
 $+ \sin \alpha \cdot F_1(ix)$ より

$$|\cos \alpha \cdot F_1(x) + \sin \alpha \cdot F_1(ix)| \leq p(e^{i\alpha}x) = p(x)$$

従って l. u. b. として $|F(x)| = \sqrt{F_1^2(x) + F_1^2(ix)} \leq p(x)$
 となる。

定理4. X が σ -complete vector lattice,
 $W = X + iX$ として Y が complete vector lattice
 $Z = Y + iY$ とする。 $p(w)$ が W 上で定義せられ Y の値
 域とする次の性質をもつ函数とする。 $p(w) = p(|w|)$,

$$p(w_1 + w_2) \leq p(w_1) + p(w_2), \quad t \geq 0 \quad / \quad t + p(tw) = t p(w)$$

$\wedge f(w)$ は W の複素部分線型空間 W_0 上で定義され Z は
 値域とする複素線型関数とし $|f(w)| \leq p(w)$ が成立する
 ことを示す。このとき W 上で定義され Z を値域とする複
 素線型関数 $F(w)$ が存在して $w \in W_0$ のとき $F(w) = f(w)$ 。
 $w \in W$ のとき $|F(w)| \leq p(w)$

(証) 定理3の証明と同様。

定理3の証明から分るやうに X が複素線型空間で
 $p(x) = p(e^{i\alpha} x)$ が満足されることから此等/定理/証明は
 充分である。

§ 2.

定理5. X は vector lattice, X_0 は X の部分線型
 空間, X の任意の要素 x , X_0 の要素が majorize される
 (即ち $x \in X$ のとき $x'_0 \leq x \leq x''_0$ となる $x'_0, x''_0 \in X_0$ が存在
 する) このとき X_0 上の正要素 = 対応する正値 (0 を含む) をと
 る complete vector lattice γ の値域とする
 additive homogeneous + 関数 $f(x)$ は X 上の
 \mathbb{R} 上の additive, homogeneous + 関数 = 拡大さ
 れる。

(証) Krein, Smulian: Annals of Math. 41
 (1940) 558 頁 lemma の証明参照。

定理6. Archimedean vector lattice X
 上で定義され \mathbb{R} 上の additive homogeneous + 関数
 (complete vector lattice を値域とする) は X を含

最小 complete vector lattice 上, 正, additive homogeneous + 函数 = 拡大される。

§ 3.

X を σ -complete vector lattice, Y を regular vector lattice. X_0 を X の sub-vector lattice (σ -complete と假定し + イコト = 注意) とす。 X_0 上で定義せられた Y へ値域とす regular + additive homogeneous + 函数 $f(x)$ が X_0 で (0) -有界 + $\{x_n\}$ が X で $0 = (0)$ -収斂スルトキ $\{f(x_n)\}$ が $0 = (0)$ -収斂スルトキ $f(x)$ の正部分及び負部分ニツイテモ同様ノ性質ヲモツコトガ証明サレル (Y が実数空間ノトキ Kantorovitch が証明シタ)。従ッテ $f(x)$ を最初カラ正トスル。

Saks ノ本ノ終リノ積分ノ部分ハ泉, 中村氏ニヨッテ lattice term が翻訳リレタガ, コレハ値域空間ヲ regular vector lattice トシテモ成スルコトガ容易ニ確メラレル。即チ泉, 中村氏ノ形デ次ノ定理が成立スル。

定理 1. $f(x)$ ハ部分 vector lattice X_0 上で正, additive homogeneous + Y へ値域トスル函数ヲ次ノ意味デ連続トスル。 $x_n \in X_0$, $\{x_n\}$ が X_0 で (0) -有界, X で $x_n \rightarrow 0(0)$ ノトキ $f(x_n) \rightarrow 0(0)$ 。コノトキ次ノ性質ヲモツ X_0 へ含ム σ -complete vector lattice L が存在シ $f(x)$ ハ次ノ性質ヲモツ L 上ノ正, additive

homogeneous + 函数 $F(x) =$ 拡大出来 ν . $z \in L$,
 $F(z) = 0$, $|x| \leq z$ + ラバ $x \in L$. $z_n \in L$. $z_n \uparrow z$
 且ッ $\{F(z_n)\}$ が有界ノトキ $z \in L$ 且ッ $F(z_n) \rightarrow F(z)(0)$

(注) X ヲ σ -complete lattice-ordered group
 トシテ 對應スル定理が得ラレル。